

第五次みやぎ子ども読書活動推進計画に基づく

**令和7年度**

**子ども読書活動に関するアンケート調査**

**調 査 結 果**

**令和8年3月**

**宮城県教育庁生涯学習課**

# 1 目的

本県では、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条に基づき「みやぎ子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進しています。

現在は、「第五次みやぎ子ども読書活動推進計画」（令和6年度から令和10年度）により、目標達成に向けた基本方針及び活動方針のもと、各種取組を進めています。

このたび実施した「令和7年度子ども読書活動に関するアンケート調査」には、計画の評価指標を把握する調査項目を入れており、調査結果を基に、目標の達成状況について確認を行っています。

## 計画の基本理念

みやぎの子どもたちが、高い志と思いやりを持ち、主体的に学び、考え、行動できる力を身に付けられるよう、

**いつでも・どこでも・自分らしい読書**

ができる環境の整備、充実を図ります。

## 2 対象・期間

### (1) 対象

県内の小学3年生から6年生、中学生、高校生から抽出を行った児童・生徒

### (2) 期間

実施期間：令和7年11月

読書冊数に係る対象期間：令和7年10月の1ヶ月間

## 3 抽出方法

(1) 県生涯学習課が学年（学科）を指定して学校を抽出

(2) 抽出された学校が、指定された学年（学科）のうち任意の学級を1学級選択

## 4 回収率

95.1% （回収数 58学級 / 母数 61学級）

（内訳）

・小学校（25学級 / 27学級）

・中学校（17学級 / 18学級）

・高等学校（16学級 / 16学級）

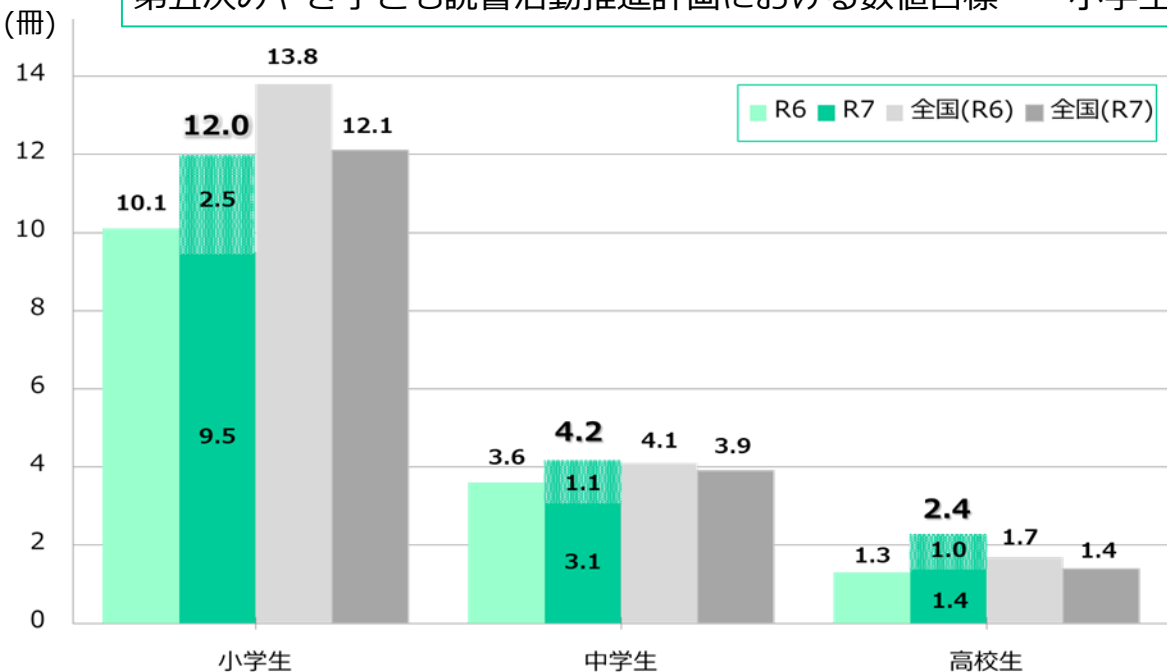
## 5 調査項目

- 1 今年10月の1ヶ月間に紙媒体の本を何冊読みましたか
- 2 本を読んだ理由は何ですか (1で「1冊以上読んだ」と答えた人のみ)
- 3 本を読まなかった理由は何ですか (1で「読まなかった」と答えた人のみ)
- 4 電子書籍を読んだことがありますか
- 5 今年10月の1ヶ月間に電子書籍を何冊読みましたか (4で「読んだことがある」と答えた人のみ)
- 6 本を読むことは好きですか
- 7 どのようなときに本を読みたくくなりますか
- 8 どのようにして本を手に入れることが多いですか
- 9 今の学年になってから学校の授業以外で図書館から本を借りたことがありますか
- 10 —中学生・高校生のみ—  
自分と同世代の人がもっと読書をするようになるためには何が効果的だと思いますか

# 6 調査結果

## 【平均読書冊数（1ヶ月間に読んだ冊数）】 計画の評価指標

第五次みやぎ子ども読書活動推進計画における数値目標 小学生**13.1冊以上** 中学生**4.6冊以上** 高校生**2冊以上**

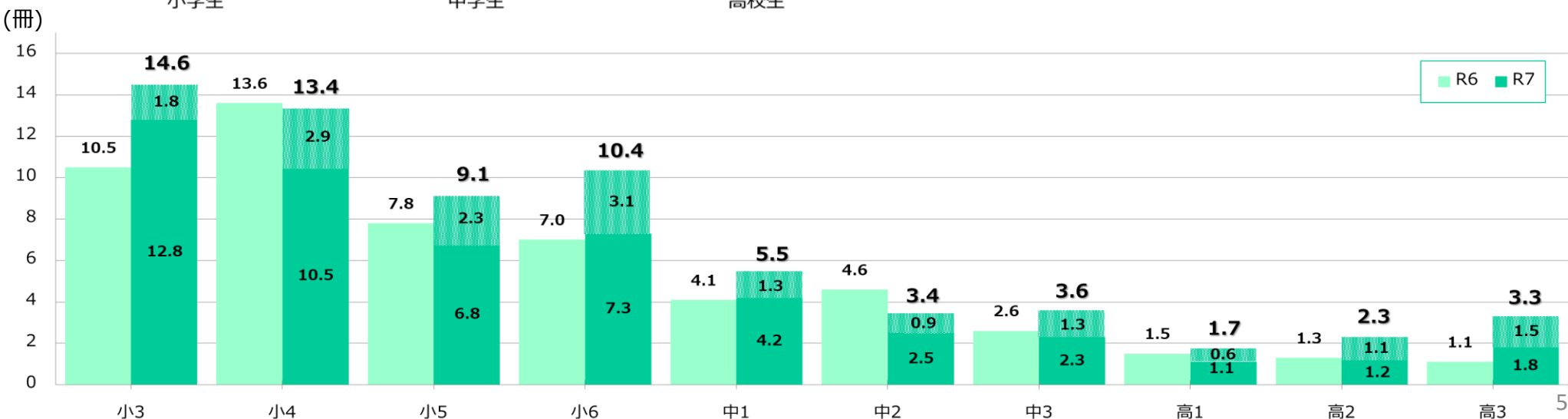


左図が校種別、下図が学年別の数値を表したグラフ。

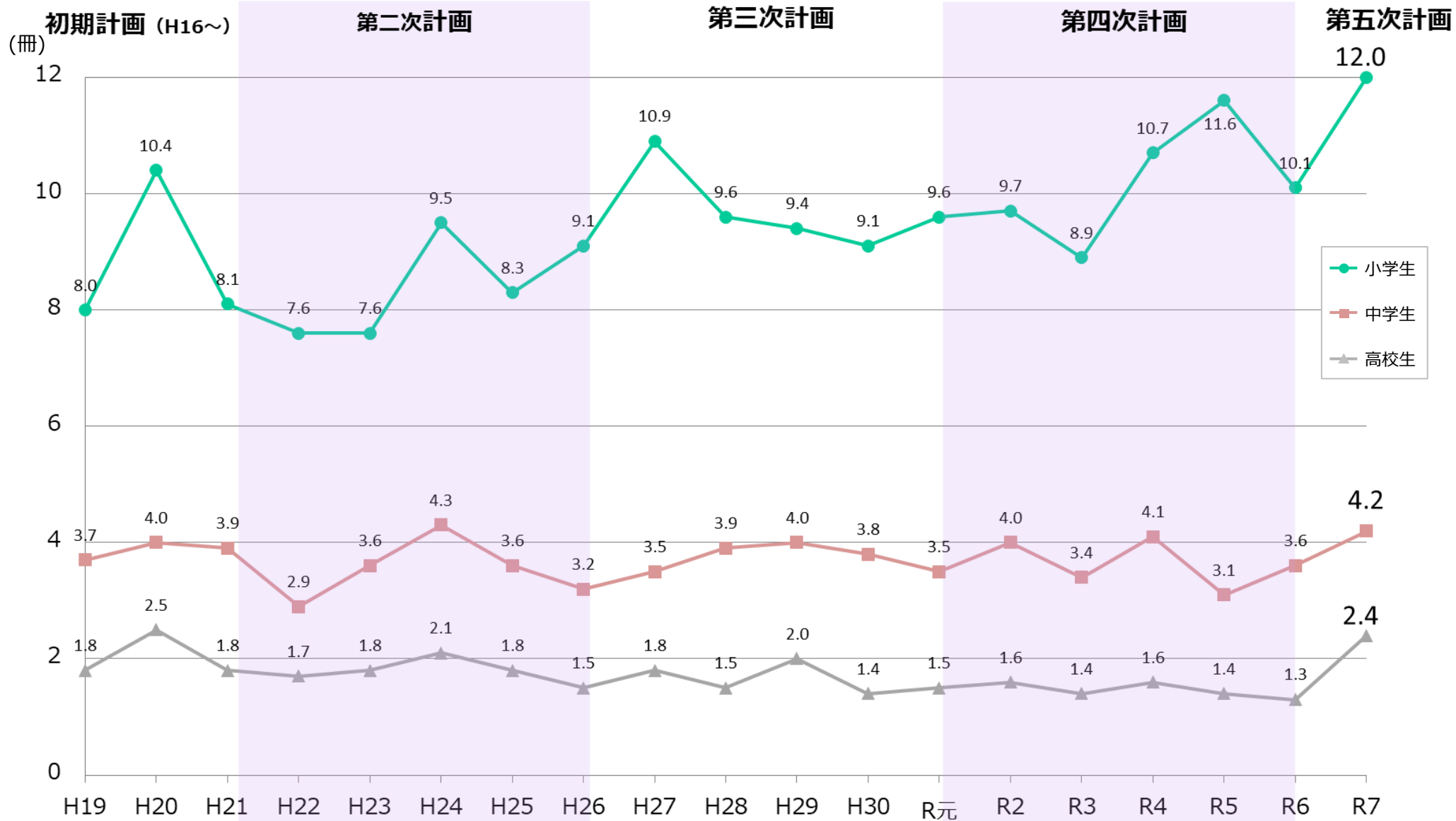
R6までは読書冊数に電子書籍を含むか否かを明確に記していなかったが、R7は紙媒体の本（下段）と電子書籍（上段）の読書冊数をそれぞれ調査した。（全国平均はいずれも電子書籍も含めた数値）

電子書籍を含めた平均読書冊数は、**全国平均と比較し、小学生は同等、中学生及び高校生は高い数値**となっている。

計画における数値目標は上枠のとおりであり、**電子書籍を含めると、高校生のみ目標を達成**している。



# 【平均読書冊数の推移】

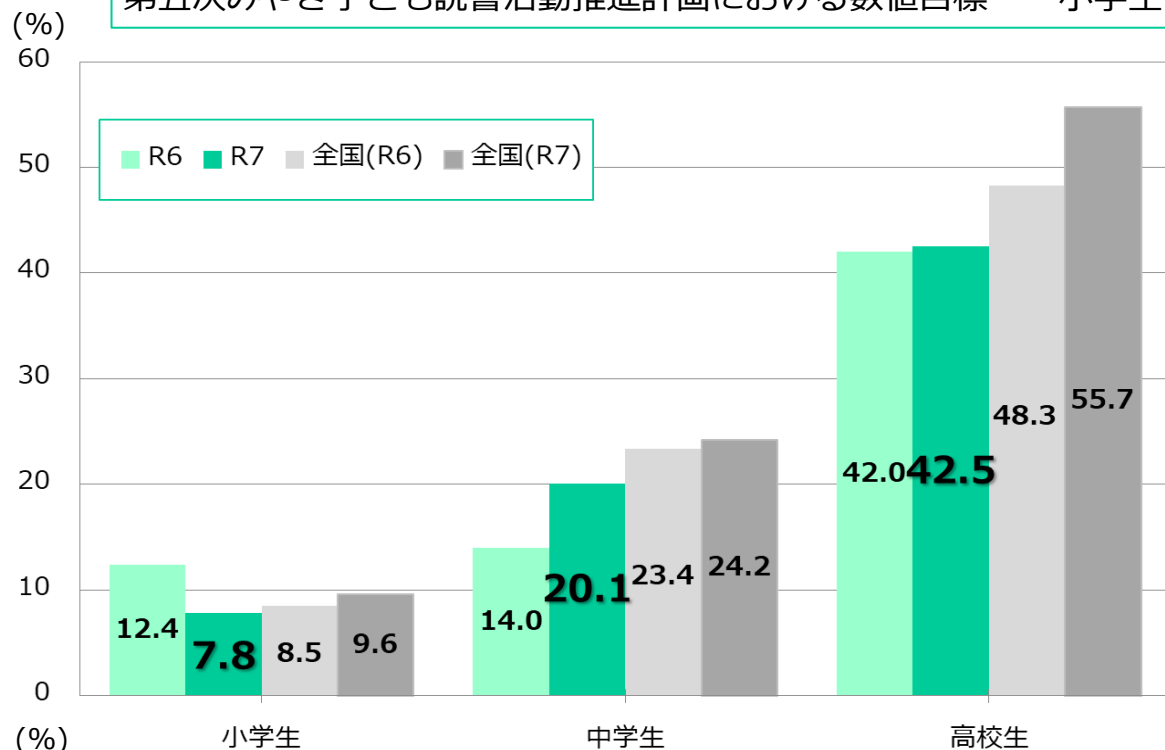


R7は読書冊数に電子書籍を含めることを明記したことも影響したのか、**小学生は調査開始以降で最も高く、中学生と高校生も2番目に高い数値**となった。

**小学生は緩やかに増加傾向、中学生及び高校生は調査開始時から類似の数値変動**となっている。

# 【不読率（本を1ヶ月間に1冊も読まなかった児童・生徒の割合）】 計画の評価指標

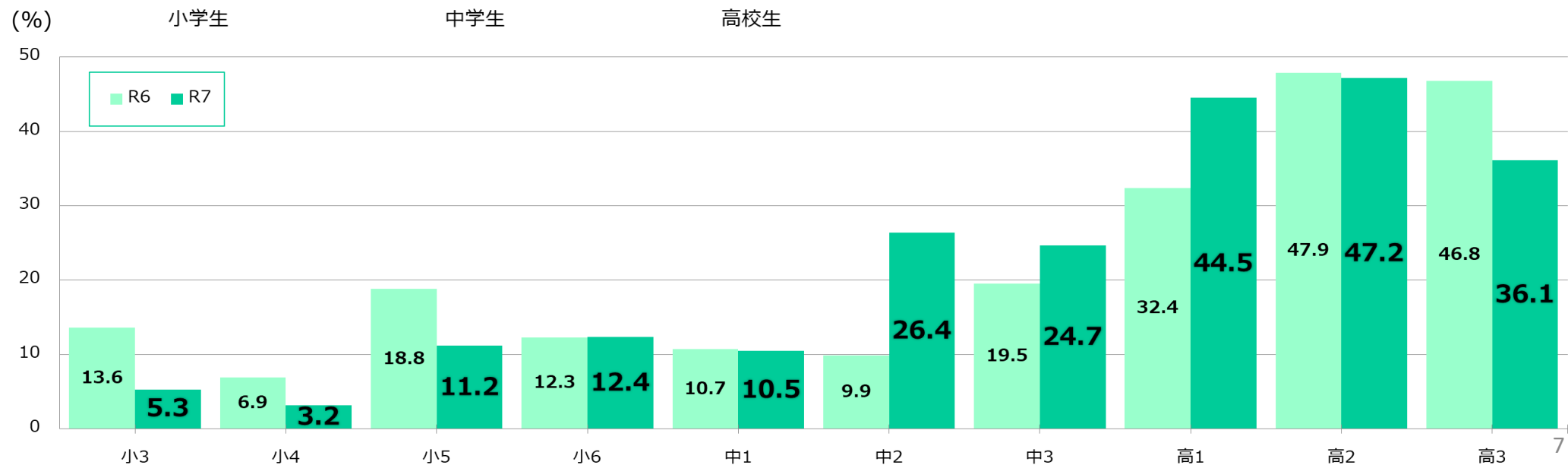
第五次みやぎ子ども読書活動推進計画における数値目標 小学生**7%**以下 中学生**16%**以下 高校生**39%**以下



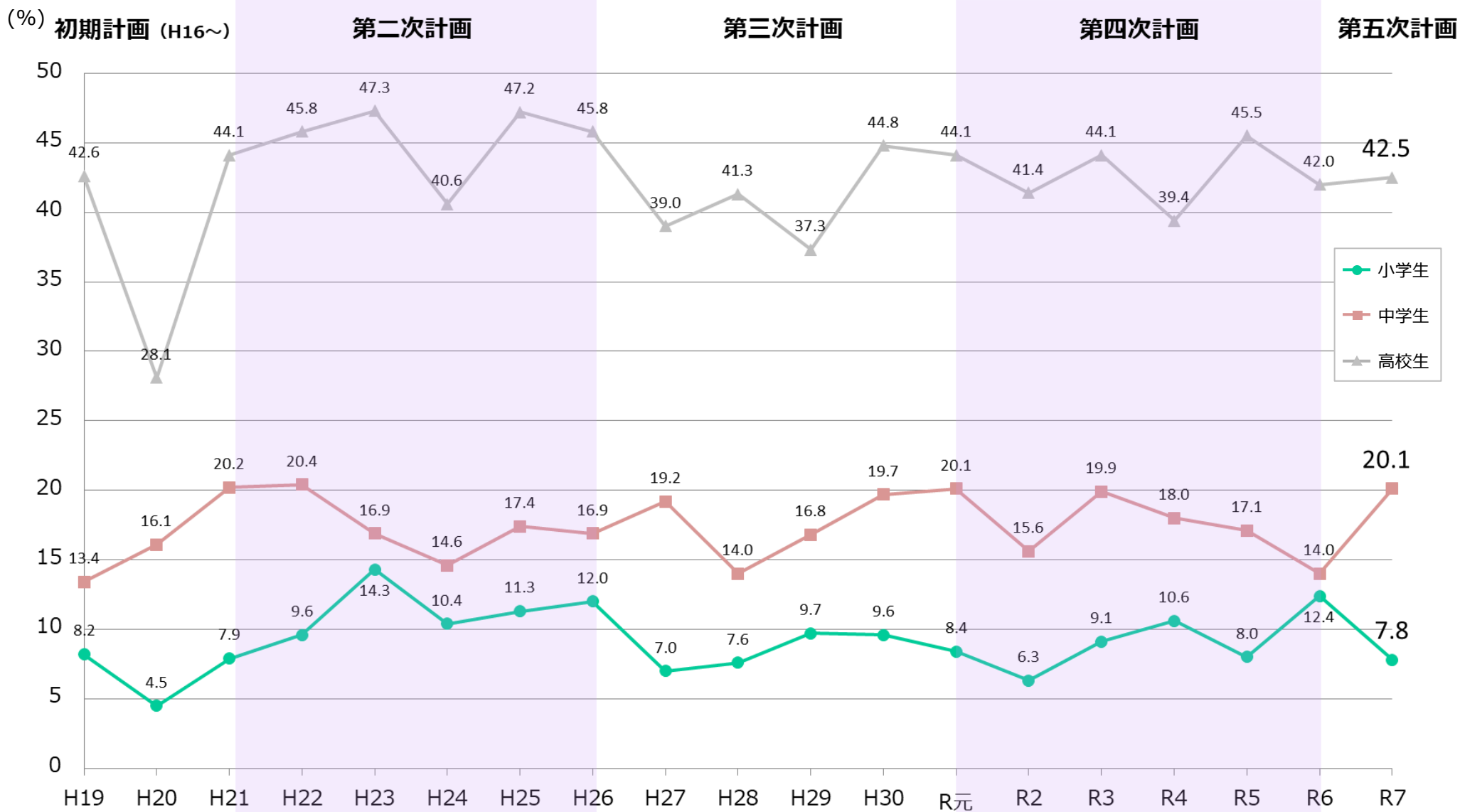
左図が校種別、下図が学年別の数値を表したグラフで、全国調査と同じく、紙媒体の本と電子書籍のどちらも読まなかった児童・生徒の割合となっている。

昨年度と比較し、小学生は-4.6ポイント、中学生は+6.1ポイント、高校生は+0.5ポイントとなり、**全ての校種で全国平均より不読率が低くなっている。**

計画における数値目標は上枠のとおりであり、**全ての校種で目標を達成できなかった。**



# 【不読率の推移】

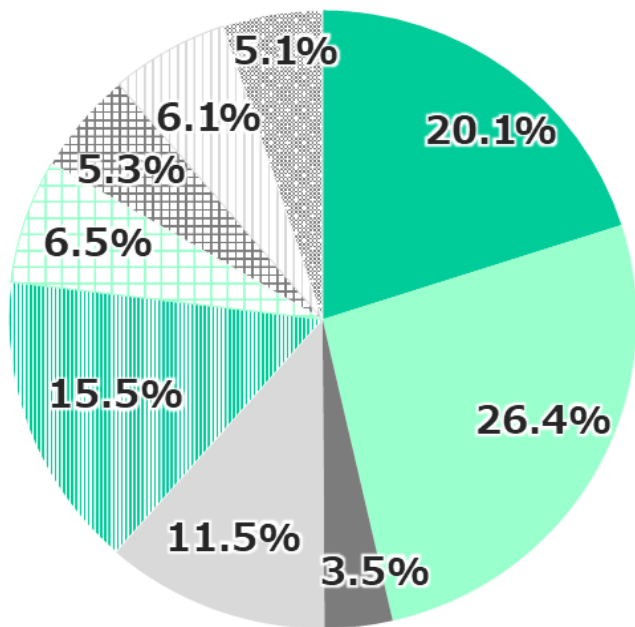


R4以降は電子書籍も含めた不読率となっている。

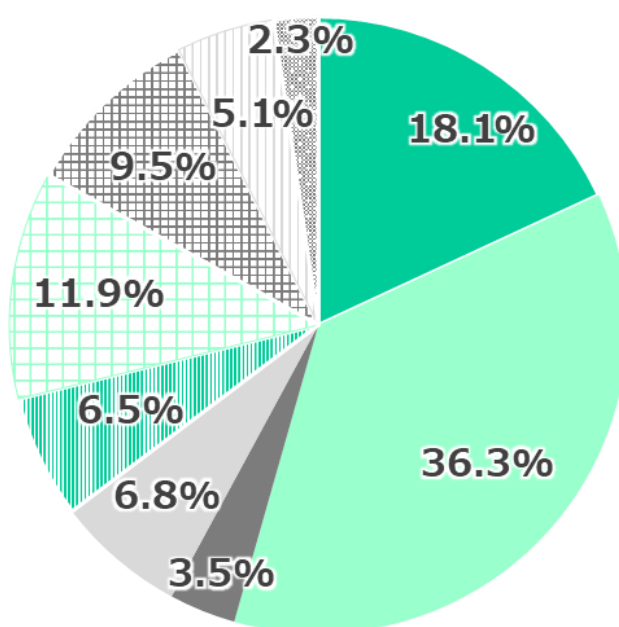
全ての校種で増減を繰り返しながらほぼ横ばいとなっており、中学生はここ数年は減少傾向にあったが増加している。

【本を読んだ理由】 ※複数回答可

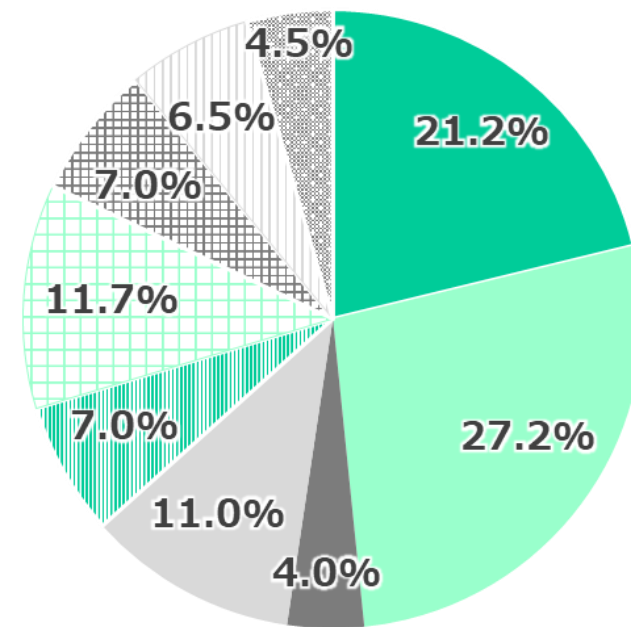
小学生



中学生



高校生



■ 本を読むことが好きだから

■ 友達・家族・先生にすすめられたから

■ 知らないことがわかるから

■ テレビや映画を見て、原作を読んでみようと思ったから

■ その他

■ 学校で読む時間があったから（朝読書の時間など）

■ 勉強になるから

■ 学校や地域の図書館・本屋などで読みたい本を見つけたから

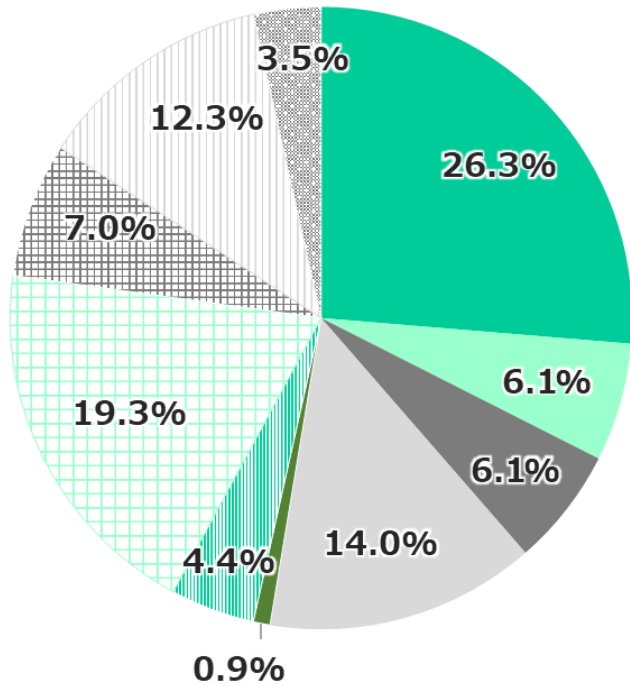
■ 話題の本があったから

全ての校種で、最も多いのが「学校で読む時間があったから（朝読書の時間など）」、次に多いのが「本を読むことが好きだから」であった。

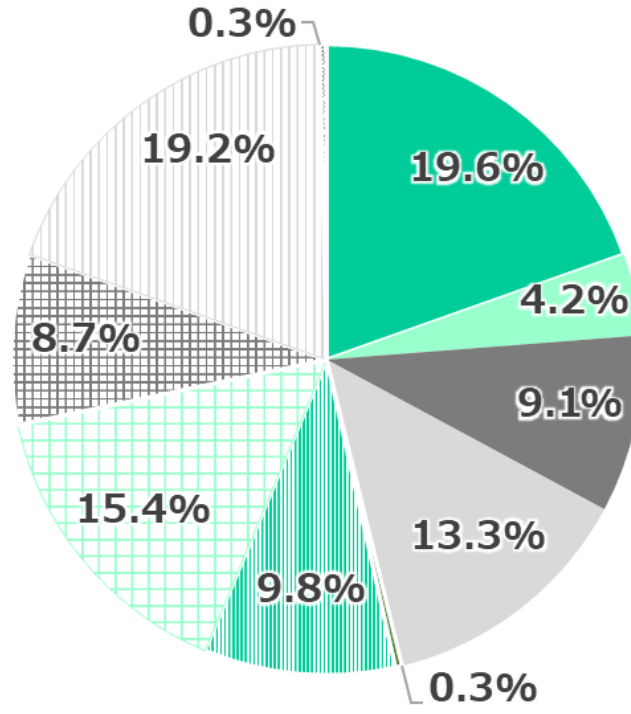
次いで多かったのは、小学生では「知らないことがわかるから」であったが、中学生と高校生では「学校や地域の図書館・本屋などで読みたい本を見つけたから」であった。

【本を読まなかった理由】 ※複数回答可

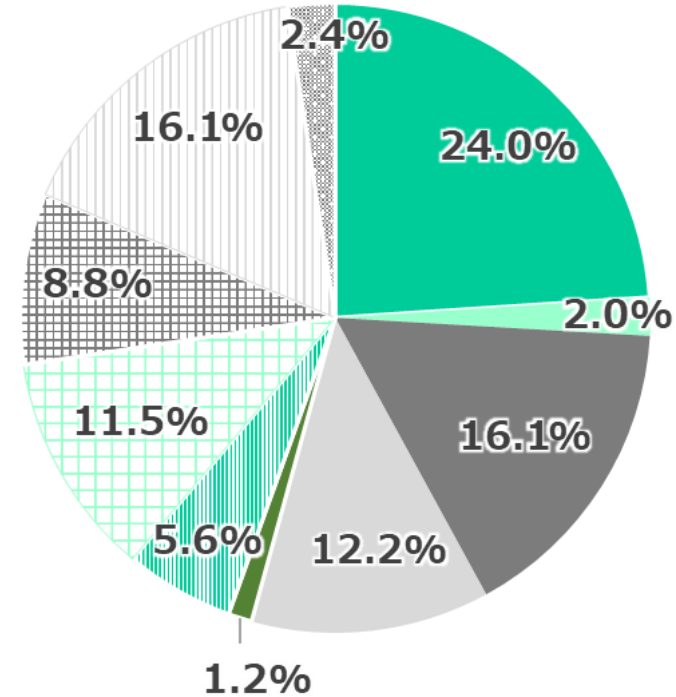
小学生



中学生



高校生

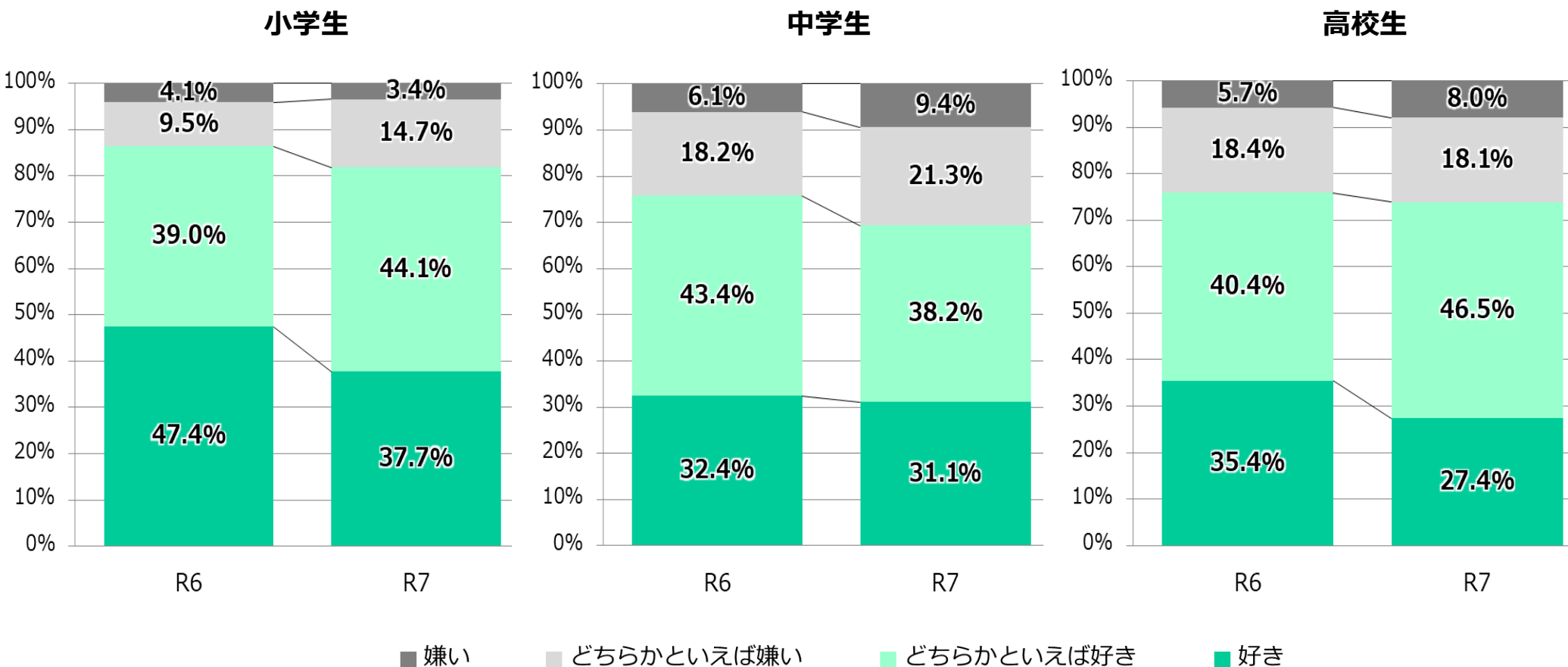


- 読んでみたい本がなかった
- 勉強や塾・習い事で本を読む時間がなかった
- 図書館・本屋が近くになかった
- テレビ・ゲーム・SNS (ラインやインスタグラムなど) のほうがおもしろいから
- 趣味や好きなことをしたほうが楽しいから
- 読んでみたい本がなかった
- どんな本を読めばいいのかわからなかった
- 趣味や好きなことをするために本を読む時間がなかった
- 読書はおもしろくないから
- マンガや雑誌のほうがおもしろいから
- その他

全ての校種で、最も多いのが「読んでみたい本がなかった」であった。

次に多いのが、小学生は「テレビ・ゲーム・SNS (ラインやインスタグラムなど) のほうがおもしろいから」、中学生と高校生は「趣味や好きなことをしたほうが楽しいから」であったが、高校生は「勉強や塾・習い事で本を読む時間がなかった」も同数となっている。

# 【読書の好き嫌い】



昨年度と比較すると、**全ての校種で「好き」と答えた児童・生徒の割合が減少**した。

「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた児童・生徒は、**小学生**では昨年度から-4.6ポイントの**81.8%**、**中学生**では昨年度から-6.5ポイントの**69.3%**で、**高校生**では昨年度から-1.9ポイントの**73.9%**となっている。

【本を読みたくなるとき】 ※複数回答可

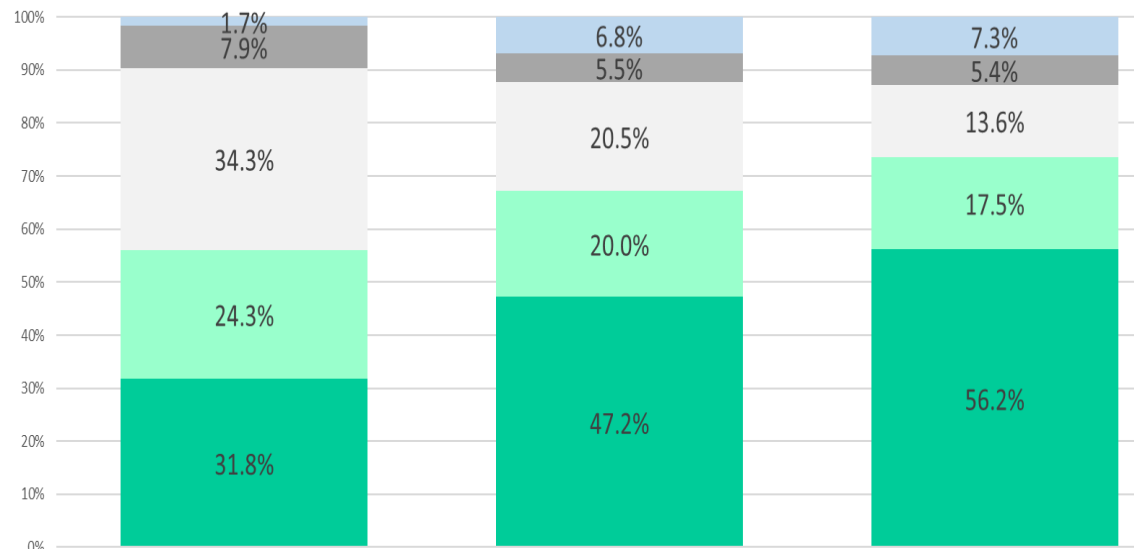
(回答数)



全ての校種で最も多かったのが「暇な時間ができたとき」、次いで「読んだ本の続きを知りたいとき」や「本の世界を楽しみたいとき」などが多くなっている。

中学生と高校生では、“本を読んだ理由”でも多かった「学校や地域の図書館・本屋などで読みたい本を見つけたとき」と答えた生徒も多い。

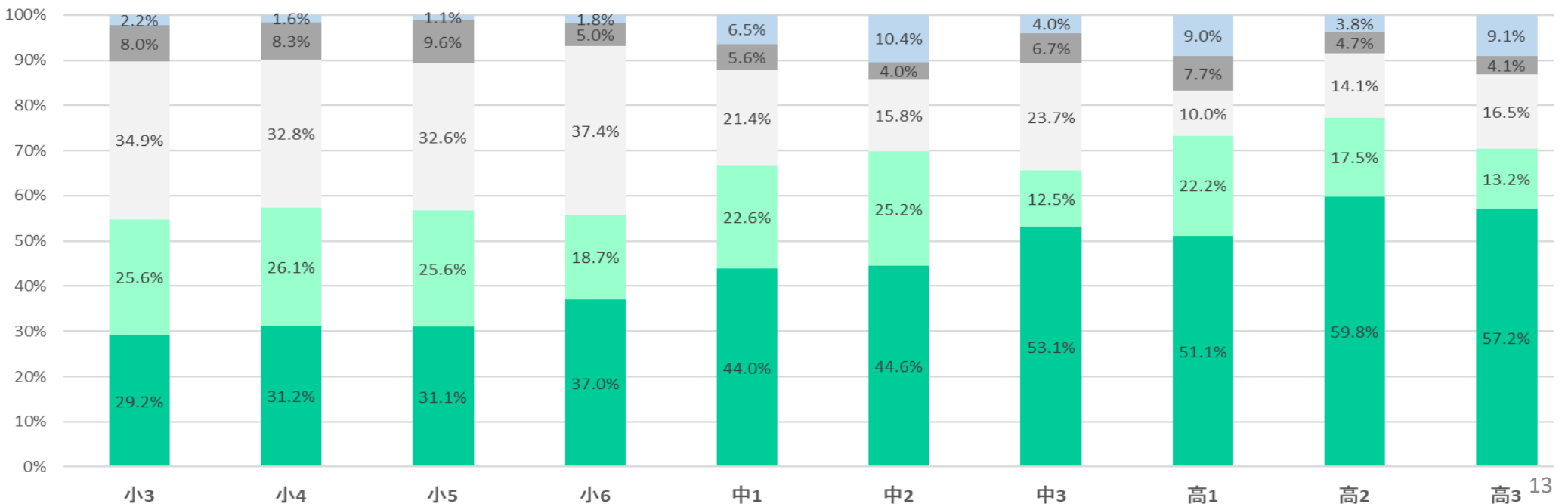
【本の入手方法】 ※複数回答可



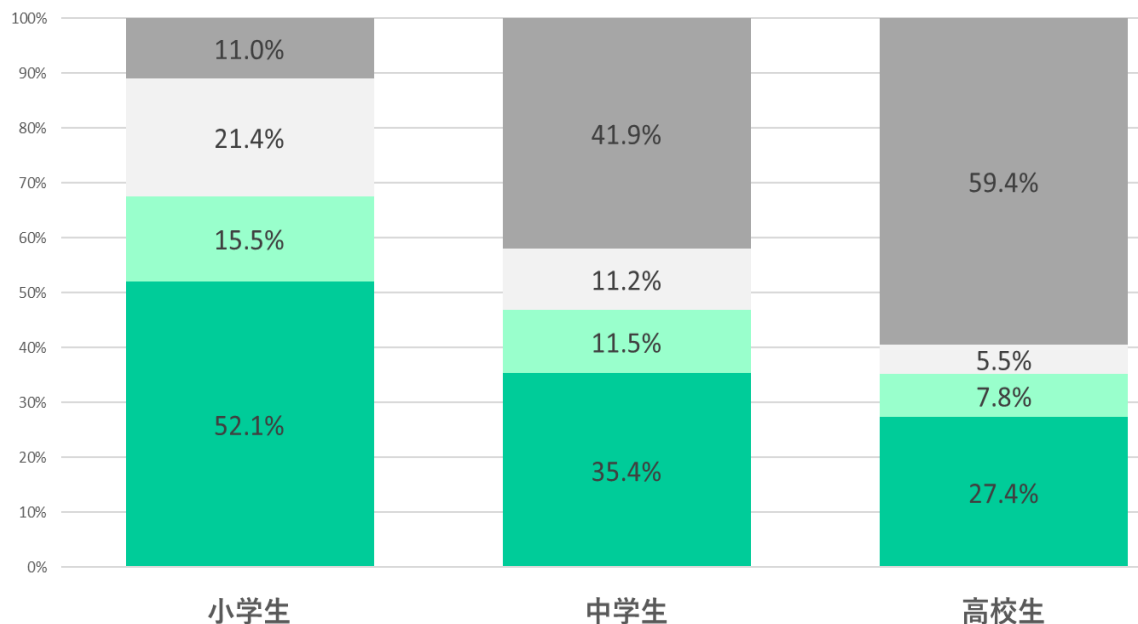
左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。  
校種が上がるにつれて「買う(買ってもらう)」が多くなっている。小学生は「学校の図書館から借りる」が最も多い。

学年別に見ると、小学6年生を境に、「学校の図書館から借りる」よりも、「買う(買ってもらう)」の割合が多くなっていることが分かる。

■ 買う(買ってもらう) ■ 家にある本を読む ■ 学校の図書館から借りる ■ 学校以外の図書館から借りる ■ 友達・家族・先生から借りる



# 【現在の学年になってからの各種図書館の利用の有無（学校の授業を除く）】

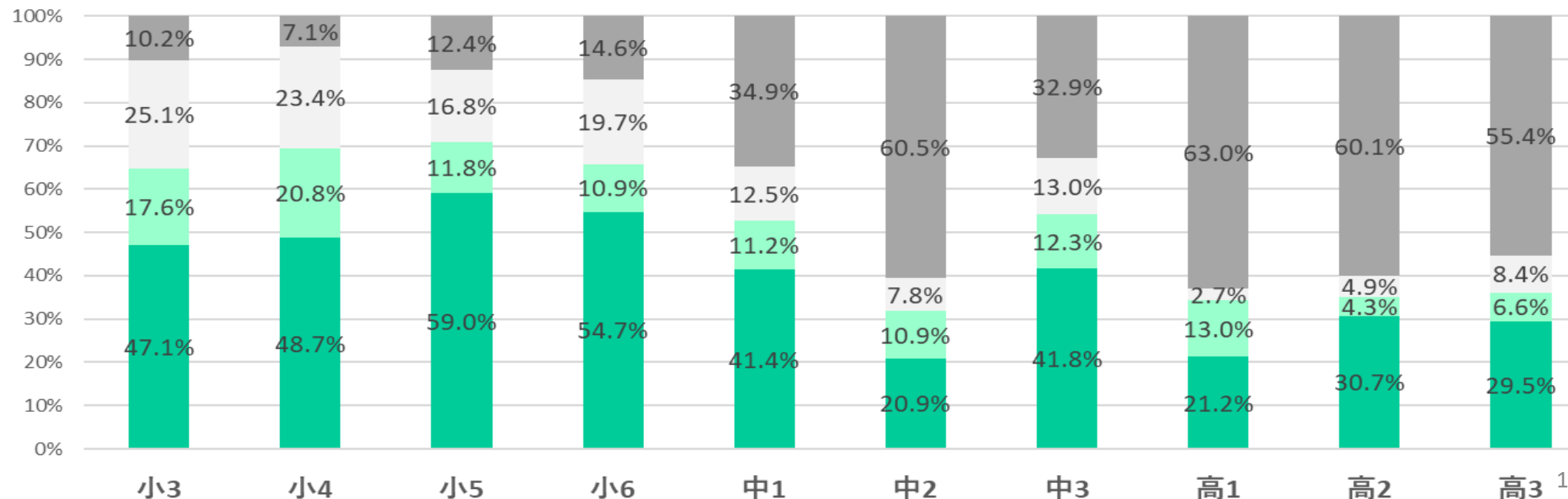


左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。  
 校種が上がるにつれて「どちらでも借りたことがない」が多くなっている。

小学生は、およそ90%の児童が学校または学校以外の図書館で本を借りたことが分かる。

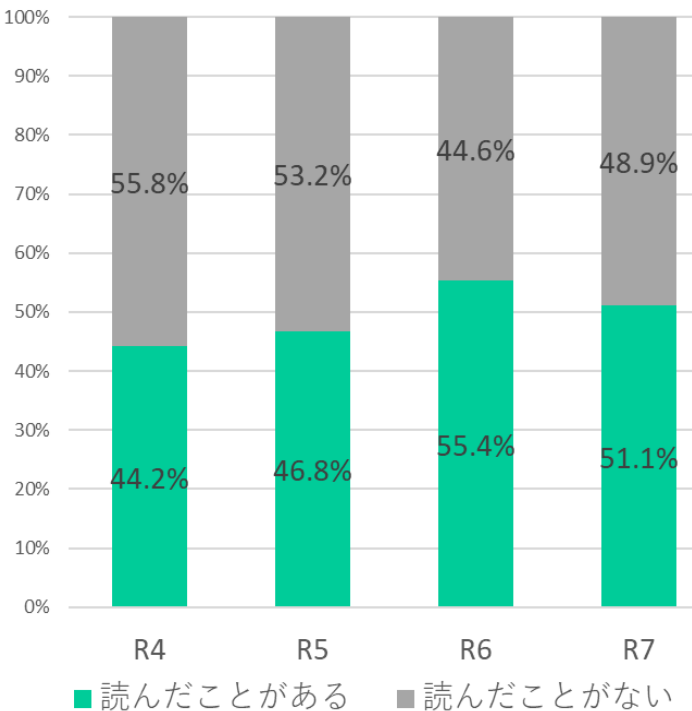
高校生は学年が上がるにつれて、学校または学校以外の図書館で本を借りた割合が増加している。

■ 学校の図書館から借りたことがある ■ 学校以外の図書館から借りたことがある ■ どちらでも借りたことがある ■ どちらでも借りたことがない



# 【電子書籍の読書経験】

(図1)



(図2)

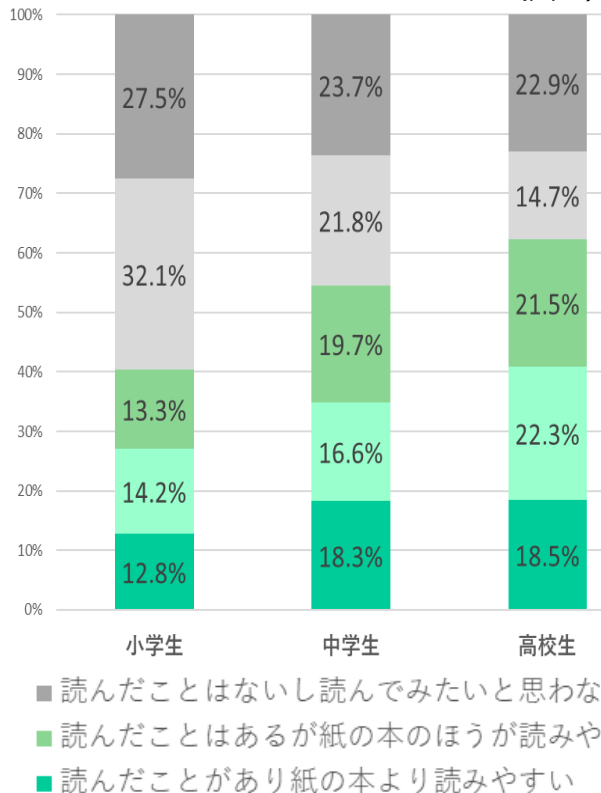
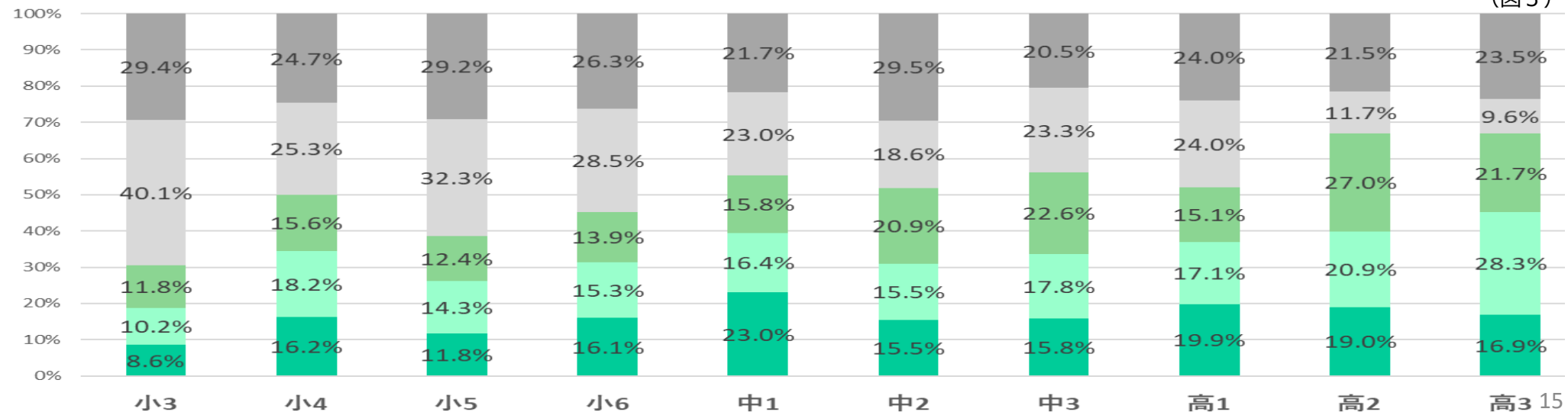


図1は電子書籍の読書経験の有無について調査を開始したR4から年度ごとに比較したグラフ。昨年度より減少したが、半数以上は「読んだことがある」ことが分かる。

図2はR7の校種別、図3はR7の学年別の数値。校種が上がるにつれて電子書籍を「読んだことがある」割合が増加し、高校生は6割以上となっている。

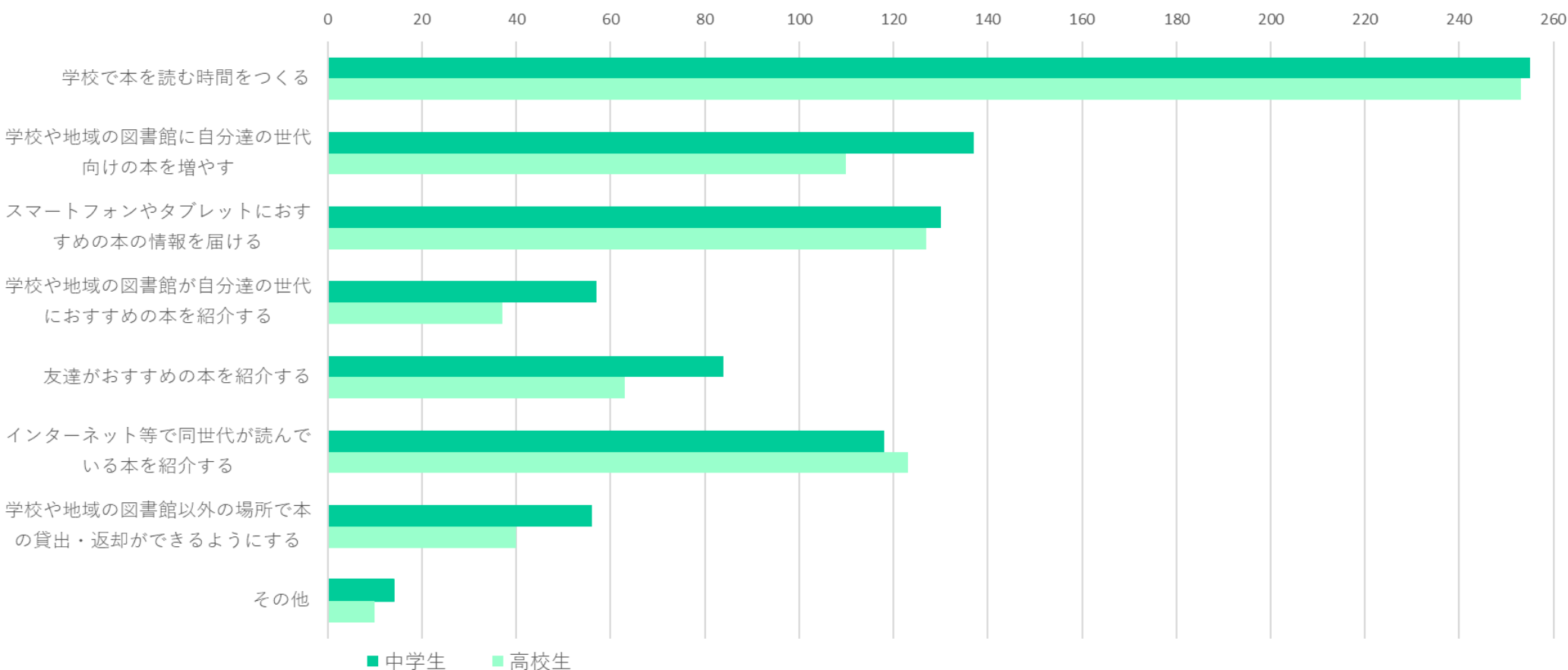
(図3)



—中学生・高校生のみ—

## 【同世代が読書をするようになるには何が効果的か】※複数回答可

(回答数)



中学生・高校生ともに「**学校で本を読む時間をつくる**」が圧倒的に多い。これは、前述の“本を読んだ理由は何ですか”の設問に対して最も多かった「学校で読む時間があったから（朝読書の時間など）」の回答と結び付く。

「**学校や地域の図書館に自分達の世代向けの本を増やす**」も多くなっているが、中学生と高校生は小学生と比較し、“本を読んだ理由は何ですか”や“どのようなときに本を読みたくくなりますか”の設問で「学校や地域の図書館・本屋などで読みたい本を見つけたから（とき）」の回答が多かった。

また、「スマートフォンやタブレットに おすすめの本の情報を届ける」や「インターネット等で同世代が読んでいる本を紹介する」といった**ICTを活用した働きかけ**も効果的と考えていることがわかる。